

愛のバトンタッチ
**賀川豊彦から
 日野原重明さんへ**

田辺 健二
 (鴨門市賀川豊彦
 記念館名誉館長)

昨年11月、BS番組「昭和偉人伝」で、賀川が取り上げられた。賀川の最晩年に見舞いを兼ねて診察した日野原さんは、ウイリアム・オスラ博士の名著「内科学総論」を、賀川からメッセーシ入りで渡されている。「君に道音のよ

教えが活動の根源に



在りし日野原重明さん(2006年)

7月18日、100歳で亡くなった東京・聖路加病院名誉院長の日野原重明さんは、幼少期を徳島で過ごした社会運動家賀川豊彦(1888〜1960年)を「人生の師」として尊敬していた。

寄稿

なものを残すから、日野原先生頑張ってくださった」と言っていて贈ってくれた。私がバトンタッチされたんでしよう」

「徳島のなまりが残る独特の語り口で、話がうまいのなんの。博識なうえに、アイデアを持った人でしたから、どこに若者は好奇心も興味をかきたてられました。当時のわたしも、熱烈的なインス

ピレーションを感じましたね」
 神戸での貧民救済活動や米リンストン大に留学した後、無料診療所を開設したことも触れている。貧しさと病氣は直結していると考え、実践したことなどを紹介した。

その上で「念頭にあったのは『なにが弱者のためになるか』という立場です。もし、今の時代に賀川先生が生きていたとしたら、そんな思いをめぐらせてみると、おそらく、やはり当時と同じことを言い、同じ行動をとられたのにながらあります」

「その半年後、先生が『世界に平和を求らせて下さい。アーメン』とはつきりと言い、折りとともに亡くなるのをみとりました。本に書かれた言葉は、わたしに託してくださった道音なのだと肝に銘じ、いまもだいに保存しています」と

「死をどう生きたか」(中公新書)にも記されている。また2009年12月22日、神戸市での賀川豊彦献身100年記念式典の時の講演にも、オスラの著書を持参し、聴衆に示してくれた。

100歳を超えても現役の医師だった日野原さん。音楽や演劇、講演、執筆、平和運動などを軽やかにこなし、「高齢者の星」「マルチ人間」と多くの人に愛され、たたえられた。